詫間中学校学校通信　輝笑転結　～ 一人一人が立て役者 ～

浦島伝説

令和５年１０月１３日
第 ２３ 号

自己評価と他者評価

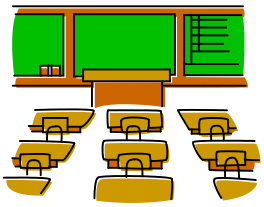
ちょうど１週間前、学校訪問が実施されました。香川県教育委員会から５名、三豊市教育委員会から教育長をはじめ６名が、本校の学校の様子を参観されました。

これは年に１回毎年実施されているものです。我々詫間中学校が、他者評価を受ける日でもあります。

朝８時に香川県教育委員会の方を図書室に案内していたときのことです。２名の生徒に出会いました。２人は、急いでいましたが元気に「おはようございます」とあいさつしていました。Ｃ棟に入る手前で１名の生徒に出会いました。そこでも「おはようございます」とあいさつをしていました。朝すれ違った３名の生徒の爽やかなあいさつによりその後の香川県教育委員会からの指導ではうれしい言葉をたくさんいただきました。詫間中学校の生徒は、日々あいさつを当たり前に普通におこなっています。しかし、世の中にはできていない学校や中学生も多くいるようです。我々は「日本一」の中学生を目指していますから当然のことですが、やはり他者から評価され、褒められるのはうれしいことです。先生方、生徒のみなさん、保護者のみなさんに感謝です。ありがとうございます。

さて、授業の評価についてです。

「よくつぶやく　１年生」
「話し合う　２年生」
「考えを深める　３年生」



の姿を高く評価されました。これもまた普段の授業中に行っていることです。当たり前のことを当たり前に行い（凡事徹底）、継続していることは、本当に素晴らしいことです。「日本一」の学校に日々近づいている証です。これからも自信を持って継続し、伝統を受け継いでいきましょう。

１．自己評価と他者評価のズレ

評価とは一般的に、できるできないといった能力的側面や良い悪いといった価値的側面などについて判断をすることです。また、**自分で自分を評価することを自己評価、他人が自分を評価することを他者評価**と言います。評価は客観的な指標のみでなされるものではないので、自己評価と他者評価が完全に一致することはありませんが、多少のズレがあったとしても納得のいく範疇であれば、評価のズレに関して問題になることはないと思います。

２．評価のズレを埋める

評価のズレを埋めていく時に、自分に対しても他人に対しても、いきなり評価を変える／変えさせるというのは難しいと思います。**評価はその対象となる出来事の積み重ねで形作られる**ので、**評価を変えていくためには同じように出来事を積み重ねていく必要がある**からです。

３．評価は自他を理解すること

評価は必ずしも優劣や価値を判断することに限られるものではなく、**自分や相手に対する理解を表すものでもある**と思います。したがって、自己評価や他者評価を掘り下げていくことは自分や他者が自分のことをどう理解しているかだけではなく、**自分や他者がどんな特徴を持っているのかを知ることにもつながる**のではないかと思います。